

瀧口 剛
法学研究科・教授

【研究】

日本政治外交史、特に戦間期を中心に大阪財界の政治経済史、通商政策などについて研究した。本年度は特に自由通商運動と1930年代の政治変動の関係について研究した。またこれらの研究にもとづき、科学研究費として、基盤研究(C)「自由通商の近代日本政治史」を獲得している。

研究成果としては、「戦後日本のアジア主義論」田中仁編『21世紀の東アジアと歴史問題』法律文化社、2017年4月、書評「萩原淳著『平沼騏一郎と近代日本—官僚の国家主義と太平洋戦争への道』』『日本歴史』2018年4月の執筆がある。

なお、グローバルガバナンス学会の「東アジアの「危機の20年」—戦間期国際制度の再検証」部会(2017年5月13日、名古屋大学)にてコメンテーターをつとめた。

【教育】

学部では、日本政治史(4単位)、フレッシュマンセミナー(2単位)、演習1・2(4単位)、大学院(法学研究科)において日本政治史・同特殊講義(2単位)、日本政治総合演習(2単位)、研究指導1～4(2単位)の授業を行った。また、担任教員、指導教員として1名の大学院生の研究指導を行った。

【管理運営】

学内委員として、アーカイブズ兼任教員、図書館委員を務めた。部局内委員としては、運営委員会、資料室(室長)、計画室、評価室(室長)、の各委員を務めた。

【社会貢献】

「平生鈞三郎日記」の編集委員をつとめた。